

第67回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、「出土資料と漢字文化研究会」(平成26年度科学研究費補助金(基盤研究(B))
定例研究会との共催です。

『皇門』を読む(上)

発表者: 戸内俊介専任講師(二松学舎大学)
海老根量介助教(学習院大学)
野原将揮氏(日本学術振興会特別研究員PD)
宮島和也氏(東京大学大学院博士課程)

李学勤主編『清華大学蔵戦国竹簡』(中西書局、定価900元)の第1冊が2010年12月に出版されました。以来同書に収録された竹簡の内容は、古代中国の哲学・歴史・語学文学など、関係する分野を問わず、多くの研究者から注目を集めています。今回は同書所収の『皇門』を取り上げ、研究会を行うこととなりました。

さて、『皇門』は全13枚の竹簡からなり、第1号簡から第13号簡にはその背面全てに篇号が記されています。整理者によれば、篇題は元々無く、簡文の内容が今本『逸周書』の皇門篇に近似していることから『皇門』と付けられました。その内容は、周王が自らの群臣や家族に向けて、国王の政を助けるためには歴史に照らし合わせ賢人を登用することを奨励し、国王に背き私的な行動を戒めているものです。また、簡文の用字が西周初期の金文と近似していることから、本文は先秦期の文字や文献について研究する上での貴重な資料と申せましょう。

第67回目を迎えた今回の研究会は、戸内俊介専任講師(二松学舎大学)と海老根量介助教(学習院大学)と野原将揮氏(日本学術振興会特別研究員PD)と宮島和也氏(東京大学大学院博士課程)が担当し、最新の情報を盛り込んだ『皇門』の訳注を発表いたします。つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

日時: 2014年6月28日(土) 午後2時~午後5時

場所: 日本女子大学百年館高層棟8階815会議室

- 使用言語 日本語
- 参加費 無料
- 『清華大学蔵戦国竹簡』(壹)の写真図版や釈文のコピーなどは、各自ご用意下さい。

連絡先: 東京都練馬区中村南1-12-5
東京大学名誉教授 山東大学教授
池田知久 電話: 03-3926-8568